



因幡のくにの夢づくり

とのまる通信

第18号
2004・5・1

発行：国土交通省中国地方整備局 殿ダム工事事務所 鳥取県岩美郡国府町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612 <http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html>

荒舟の炭はお墨付き



ジゲ起こし事業がきっかけで誕生した荒舟炭生産組合。たった2人で運営されているが、全国的に人気の木酢液を作っておられる。それもそのはず…。品物の良さ、高い生産性が認められ、日本炭窯木酢液協会から西日本で初めて合格証を与えられた窯なのだ。炭ができるまでの過程を見せていただけるとの事で、早速、荒舟集落に向かった。

炭出し作業を終えた山下富好さん。「(顔に炭がついているため)ええ顔になっとう。はずかしいわい！」と満面の笑顔。

誰もやらのなら、わしらがする！

「こんにちは！」

「おう、いらっしゃい！」と振り向かれた、荒舟炭生産組合代表の山下富好さんの顔は…**うわっ！**炭だらけ！(上記の写真)

たった今、窯から炭を出されたところらしく、心なしか空気に細かい炭の粉じんが混ざってかすみ、黒炭が一角にうず高く積み重ねられていた。

作業されているのは、荒舟集落にお住まいの4人。(山下富好さん・東本宗道さん・松田君江さん・湯谷つや子さん)皆さん70代ながら、体力は若者並み！休む間も



小割りにした木材を、窯の入口まで協力して運ぶ松田君江さん(奥)と湯谷つや子さん(手前)。

粉じんマスクしとらな、鼻の中まで真っ黒になるてな！



窯から炭を出す際、粉じんマスクは必需品！窯の中の作業担当の東本宗道さん。

なく、すぐさま空になった窯に木を入れ始め、新たな炭焼きの準備にかかれていた。

この荒舟炭生産組合ができたのは、平成4年。殿ダム建設に伴い、集落の人口が減り、過疎化が進む対策として、役場に“キラッと輝く村づくり推進事業”が設けられ、行政側から水没集落(殿・神護・拾石・楠城集落)を対象に、炭焼き事業の話を持ちかけていた。しかし、どの集落も「あげなしんどのい仕事はしとうない」と拒否。そして「誰もやらのなら…」と、荒舟集落が名乗りをあげ、荒舟炭生産組合が誕生した。

炭ができるまで

炭焼き小屋



① 窯の中に入れる小割りにした木材。一窯に、このほとんど全ての木が入る。

ダダダダア〜ン



② 窯の入口まで運搬機を使って木を運ぶ。



③ 窯の入口は狭く、大人1人が通るのがやっとの大きさ。



④ 窯の中は意外に広く、一窯で約10〜11トンの木が入り、1トン半の黒炭が仕上がる。



ただひたすら…
体力勝負じゃ!

⑤ 木を受け取っては並べ、受け取っては並べ…この作業を約4時間半ひたすらくり返す。



やっと窯の口まで
木を詰めたぞ〜!
あ〜汗だくだあ〜!

⑥ 窯の中は蒸し風呂状態! 汗だくになりながら、木を詰める作業完了!

宣伝せずとも全国から注文がくる

荒舟炭生産組合は立ち上げ当初、5人だったが、現在は山下富好さんと東本宗道さんの2人だけ。2人で炭の生産から販売、商品開発までを行っており、月2トンの炭と、1,500リットルの木酢液の他、炭枕や飲める木酢液なども生産されている。

木酢液は愛用者によると、「農作物に害虫が付きにくくなる」「野菜や果物の収穫物の味がよくなった」「足湯の時使用して、水虫が改善された!」など、様々な効果があるようで、全国各地で生産されている。

その中でも、荒舟の木酢液は、同業者も舌を巻くほどの高品質! また、炭の研究者が全国で講演を行なった際、紹介して下さったり、マスコミで取り上げられたり…周りがどんどん宣伝して



荒舟の木酢液(左)と他で生産された木酢液(右)。純度が高いほど、透明感がある。

くださるため、口コミで広がり県内はもとより、全国から注文がくるようになった。

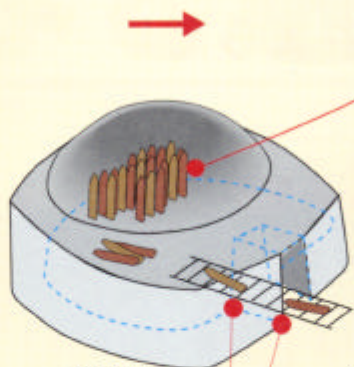
父親が炭焼きの師匠

「戦前は電気、ガス、石油もなかっただけえ、ほとんどの家が炭を使って煮炊きしとったじゃ。今では考えられんけど、列車の中で火鉢を置いて、暖まっとただでえ。だけえ、ここらへんの田舎じゃ炭が一番の現金収入でなあ、わしらも、家の仕事として手伝わされとったじゃ。」と山下さん。

その当時の炭焼きは一家に一窯あったほど盛んだったが、辛い仕事でもあった…。早朝暗いうちから家を出て、片道1時間以上かけて山に入り、木を切って運び、小割りにして、窯に入れ炭を焼き、帰宅するのは夜遅く…といった状態で、「わの子供(我が子)の顔もろくに見れん」となげく人も多かったそうだ。当時、車や機械はないため、作業は全て人力! かなり苛酷な仕事だったようだ。



④ 窯の入口から、長さ約4mの鉄製のローラーを窯の奥に突っ込み、小割りにした木をローラーの上で転がしながら奥へ入れる。



▲窯の内部



⑤ 木の向きや曲がり具合を見ながら、ほぼ垂直に並べていく。これが結構難しい！



炭焼きの手伝いをされる松田君江さん。



⑨ まさ土を水で練り、窯の口をふさぐレンガのつなぎの土を作る。



⑩ 窯の奥の入口と手前の入口をレンガでふさぎ、火を焚く。

完成!



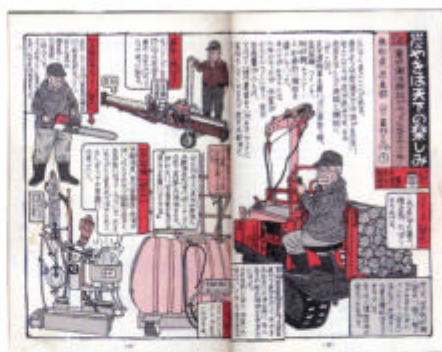
約3日間、日中火を焚き、その後7日間で木が炭化し、10日間窯を冷やし、窯から炭を取り出す。

労働賃金はタバコ銭だけ

かなり苛酷な炭焼きを、70歳半ばの男性2人だけで作業ができるのはなぜだろう？

「そりゃ、機械があるけえ、2人でも楽なだがあ！」と山下さん。施設内にある機械一式は、炭製品の売り上げで徐々に購入していった。その間の労働賃金は「タバコ銭だけ」。しかし、機械が充実することに作業が楽になり、生産量も増えていった。

生産量が増えると、今まで以上に原材料も必要になるが、木材価格が低迷している昨今、伐採した木が売れないため、引きとって欲しいという業者からの依頼や、新たに山を整えるために伐採された木などが、荒舟に運ばれ、炭焼きに利用されている。



月刊誌「現代農業」で平成14年5月と7月に紹介された荒舟炭生産組合。

けど、詳しく調べてみると、殺菌や抗菌、害虫駆除の他、土壌の環境を良くしたり、人への健康効果も期待される事を知って、魅力を感じただがあ。木酢液で、有害な物を少しでも減らせた方がえかろう。上流に住む者がきれいな川、豊かな土を守っていかんといけんだけえ。」と東本さん。

川の上流に住む人達は、川を汚さない努力をしています。この意識を中流、下流域へと広め、美しい川を次世代へつなげていきたいものです。

炭製品販売先 ■荒舟炭生産組合 TEL:0857-58-0050
■万葉の館(物産販売所) TEL:0857-27-0358

きれいな川を守りたい

「昔、炭を焼いていた時は、木酢液なんぞ全く知らなかった



殿ダム建設に伴う自然再生の取り組み…①

木の伐採と“根をリサイクル”

根をどのように
利用(リサイクル)して
いるんだろう？



ダムを建設するにあたり、木を切ったり、土を掘ったり…どうしても、今までの環境を変える箇所が出てきます。そこで、殿ダム建設事業では、工事中に出た物をリサイクルしたり、自然の再生に配慮した工事にも力を入れています。

今回よりこれらの取り組みを、毎号シリーズにてご紹介していきます。今回は“根をリサイクル”。どんな取り組みで、その効果やいかに…。



伐採した木や掘り起こした根を1箇所に集めます。



粉碎机

木や根を粉碎机で細かく碎きます。



粉碎机で細かく碎かれた木や根は、粉末状になります。

根をリサイクル工法

① 伐採木や木の根

② 堆肥化ヤードに運搬

③ 粉碎

④ 堆肥化

⑤ 混合

⑥ 吹付ヤードに運搬

⑦ 吹付ガンに投入

⑧ のり面に吹付

※のり面…土を盛ったり、山を削ったりしてできた人工的な斜面。



粉末状になった木や根に、発酵促進剤や尿素などを入れ、堆肥になるよう、水をかけながらよく混ぜます。



わ〜！
あんな急斜面に
人がいるよ！



堆肥化した土をのり面に吹き付けている作業。

根をリサイクル工法を行った直後



1年後



あっ！
草はえてきて、
周りの自然と
溶け込んできたよ！



“根をリサイクル工法”は、工事により出た木や根をリサイクルするといった大きな役割の他、堆肥作りの過程で、既存(今までそこにあった地元産)の植物の種を混ぜ込むため、何もしない工事に比べ、いち早く草が芽吹き、地盤を固める役割もします。また、工事箇所全面に緑が蘇るため、自然に溶け込んだ景観が早く作れるといったメリットがあります。

殿ダム周辺散策マップ

特集ページで紹介した荒舟炭生産組合やその周辺の散策ポイントをご紹介します！

殿ダム建設予定地は、鳥取市内から車で約30分！この度特集でご紹介した荒舟炭生産組合は殿ダム建設予定地の手前の山崎橋を右折して車で約2分の所にあります。どちらも気軽にお出かけください！



新緑美しい雨滝

国府町には「日本の滝百選」の1つである勇壮な雨滝の他、宮滝や親子滝など、大小様々な滝が望めます。また、毎年6月上旬には、雨滝の前で滝開きが行なわれます。

アトリエ(成器)小学校



旧成器小学校の校舎内で、福田典高氏指導のもと、絵手紙制作ができます！教室の一部は、殿ダム工事事務所の監督員詰め所として利用させていただいている他、一般の方がホットひと息できる憩いのスペースもあります。



荒舟炭生産組合



炭や木酢液、炭枕など炭製品の販売や、炭焼き体験を実施。(※炭焼き体験は要予約。TEL.0857-58-0050)

吉野そばの館

毎週日曜日のみ営業。そば打ち体験有り。

万葉の館



万葉の館に隣接している特産品販売所に、今回ご紹介した、荒舟の炭製品が販売されています。

殿ダム周辺は
おもしろい！



殿ダムはあなたのそばをつくっています！

JR鳥取駅から
殿ダム建設予定地まで車で約30分(約14Km)

市内から意外と近い殿ダム建設予定地。一度立ち寄ってみてください。

殿ダム付替県道2号トンネル工事 安全祈願祭が行なわれました！



県道2号トンネル工事の無事故、無人災を祈る関係者

国府町初の殿ダム付替県道1号トンネル工事が、今年2月末に完了し、次に付替県道2号トンネルの掘削作業を行なう運びとなりました。

そこで、工事の安全と潤滑な作業を願うため、3月24日、付替県道2号トンネル前にて、日本国土開発株式会社主催のもと、各工事関係者が集まり、安全祈願祭が行なわれました。



これから本格的に掘削工事が始まる
県道2号トンネル入口での神事

殿ダム付替県道 2号トンネル工事概要

- トンネルの長さ：290m
- 工期：平成15年10月3日～平成17年3月31日
- 請負業者：日本国土開発(株)



現在、ダム本体工事に向け、着々と準備が進められています。

殿ダム建設に伴う 移転者ご家族の今を紹介するコーナー

今回の元気がいな！

米山廣美さん



新居前にて米山廣美さん(左)、あつ子さん(中央)、時子さん(右)

殿ダム建設に伴い平成12年3月、拾石集落から国府町玉鉾に移転された米山廣美さんご家族。今年で78歳になられる廣美さんの母、あつさんに拾石での思い出を伺った。

「廣美が生まれた昭和23年に、中河原から栃本までバスが通るようになり、保育園に行く年から中河原保育園ができ、大茅小学校に入学した年から、学校給食が始まったんです。息子の成長の節目節目に、初めての事が重なったもので、その当時の事をよお覚えとります。」と語られた。

しかしながら、記憶は徐々に薄れるもの。そこで、新天地に行っても、拾石集落での生活をすぐに思い出せるようにと、移転する約3年前から、拾石集落に咲く花や生活の様子、そして米山家の母屋やその周辺などのスケッチを始められた。そのスケッチブックを拝見すると…米山さん宅の門周辺にあったユズのスケッチがあり、文章も添えられていた。



あつさんが描かれたユズのスケッチ。

『ダムになり
何百年たちたるゆずの木よ
心悲しき 寂しさよ』
今はなき集落の思い出は、あつさんの心の中と、この5冊のスケッチブックの中にたくさんつまっている。

お問い合わせ & 便利のあて先

国土交通省 中国地方整備局 殿ダム工事事務所
とのまる通信編集部
〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1221
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612
http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html



再生紙を使用しています